

成果の説明書

(氏名) 高橋 克幸	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) セグメント情報に関する研究</p> <p>昨年度は、手作業により収集した報告セグメント別の業績予想データ・ベースを用いて、セグメント情報に関する研究を進めた。本年度は、昨年度に引き続き、手作業により収集した報告セグメント別の業績予想データ・ベースを用いて、セグメント情報に関する研究を進めた。特に昨年度は、事業別セグメントの業績予想に対する報告セグメントの利益管理をテーマとして研究を行った。</p> <p>本年度は、以下(2)業績予想に関する研究と関連させ、セグメント情報の価値関連性の推移について、分析を行った。日本では、2010年3月期以降の決算から、マネジメント・アプローチが採用された。旧セグメント会計基準に基づいたセグメント利益の価値関連性と、マネジメント・アプローチ採用以後の価値関連性を比較したところ、セグメント利益の価値関連性の増加や減少は見られなかった。</p> <p>(2) 業績予想に関する研究</p> <p>昨年度より行っていた業績予想に関する研究では、業績予想のバイアスや、業績予想の効果に影響を与える要因について、先行研究を整理した。本年度も業績予想について、検討を行った。本年度は、業績予想の価値関連性の推移について分析を行った。また業績予想の効果に影響を与える要因についても、検討を行った。そして、(1)および(2)の研究を関連させ、日本においてセグメント情報の報告や業績予想の制度の変更と価値関連性の推移について分析を行った。特に価値関連性が制度の変化等の理由により、近年増加しているのかという点に焦点を当てた。</p> <p>(3) 会計情報を使用したデータ分析</p> <p>今年は演習Ⅱを担当したため、卒業論文指導が開始された。卒業論文作成の補助となるコードや資料の作成を行った。卒業論文ではテーマが多岐にわたっているため、必要な情報を提供できるように準備した。</p> <p>また、Google Collaboratory を用いて、イベント・スタディを行うコードを学生とともに作成した。これにより、標準的なイベント・スタディを行って卒業論文を作成する学生が、コードを最初から作成する必要が不要となる。そのため、学術的な理論、背景の学習や、卒業論文独自の分析に集中できるようになった。</p> <p>本年度も、統計ソフトの使い方や基礎的な分析方法、会計研究の論文で使用されているコードを講義資料として準備した。学生の PC 環境などに左右されない、自宅でも学習が可能になるなどの理由から、統計ソフトは Google Collaboratory を使用した。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>令和4年4月より、高崎経済大学生生活協同組合の特定監事となり、理事会及び幹事会に出席するなど、監事業務を行った。</p> <p>令和5年4月より、経済学会理事となり、2025年度「INTRO」の編集を行った。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>(1) 研究について</p> <p>本年度の研究では、旧セグメント会計基準に基づいた価値関連性と、マネジメント・</p>	

アプローチ採用以後の価値関連性を比較したところ、価値関連性の増加や減少は見られなかった。そのため、次年度はより詳細に分析を行う。そして、セグメント情報の報告と業績予想の推移を関連させ、制度の変更により価値関連性が増加したか分析を行いたい。

また、次年度も引き続き事業別セグメントの業績予想を対象として、報告セグメントの利益管理、事業別セグメントの業績予想と株式市場の反応などについても検証を行いたい。会計情報の有用性の変化に関する研究では、従来の測定方法や企業の自発的な開示情報など他の様々な情報を含めて、会計情報にどのような役割および有用性があるか研究を行いたい。

(2) 教育について

次年度も卒業論文はテーマが多岐にわたっているので、必要な情報を提供できるように準備をしていきたい。今年度は、イベント・スタディを行って卒業論文を作成する学生に向けて、コードを作成した。次年度も卒業論文のテーマによって、様々な標準的なコードを場合によっては学生と一緒に、作成していきたい。会計情報の有用性の論文レビュー結果なども、近年の会計研究の成果を講義に反映させたい。